

A 教育工学に関する研究

高須 照 夫 三橋 一 夫 岡 謙 二
加藤 佳 孝 富田 昇 柳 田 嘉 久
鈴木 孝 矢 木 修

I OHPを使った授業について

—中学校社会科地理分野を例に—

加 藤 佳 孝

はじめに

社会科の地理分野は特に、複雑化し多様化する社会に対応してとりあげねばならない教材の増加が著しい。こうした状況に対処するには、教科構造の検討を手がかりにした教材の精選と効率の高い授業方法が確立されねばならない。教育機器を使った効率的な授業方法の検討は当面要求される研究方向の1つとして重要であるといえる。

ここでは、中学校社会科地理分野を例に効率的な授業とするため、OHPをどう活用するかについて、若干の実践例をもとに、その準備や授業内容の検討と留意点等について考えてみたい。

1. 地理分野でのOHPの有効性

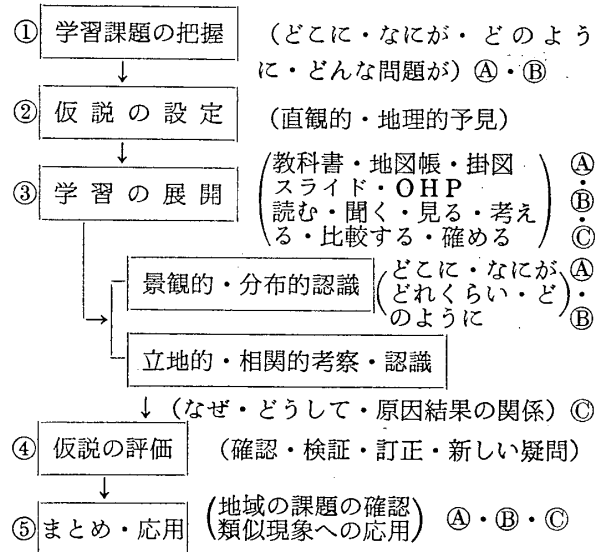
学校教育の場でもOHPは日常的に使用できるよう条件整備が進められてきたし、OHPの使用法・利用法に関しての解説書の類も数多く発行されている。それらによれば、目的は別としてもOHPの使用法は、ポインティング法、マスキング法、オーバーレイ法、平行・回転・移動対称法等々の多くが紹介されている。使用法は別としても、OHPの持つ視覚的効果は、社会科地理分野での授業において、その学習の基本である分布的把握、位置的認識、景観的理解、言い換えれば地理的諸現象の空間的認識を容易するものとしてきわめて有効的であるといえる。教科の性格にマッチした機器としてスライドプロジェクターとともに手軽に利用しうるものとしてOHPを評価したい。

地理学習の基本的要素とOHPの使用法を対応させてみると、景観的理解・分布的把握には、TPのチャート的使用が、立地的・相関的認識にはオーバーレイ法などが有効的な使用法であるといえる。

2. 地理分野の一般的学习過程とOHP利用の場

OHPを利用するための準備としてまず必要なことは、地理の授業で地理的な物の見方・考え方を養うた

めに、とりあげる教材の何をどう考えさせ、どう理解させるかという授業のねらいと授業の構成についての検討である。題材によって異なるが、地理の授業の一般的構成を次のように考え、そこにどのようなTPが使用しうるかを前述の景観的理解を④、分布的把握を⑤、立地的・相関的認識を⑥として印してみると次のようにまとめられる。



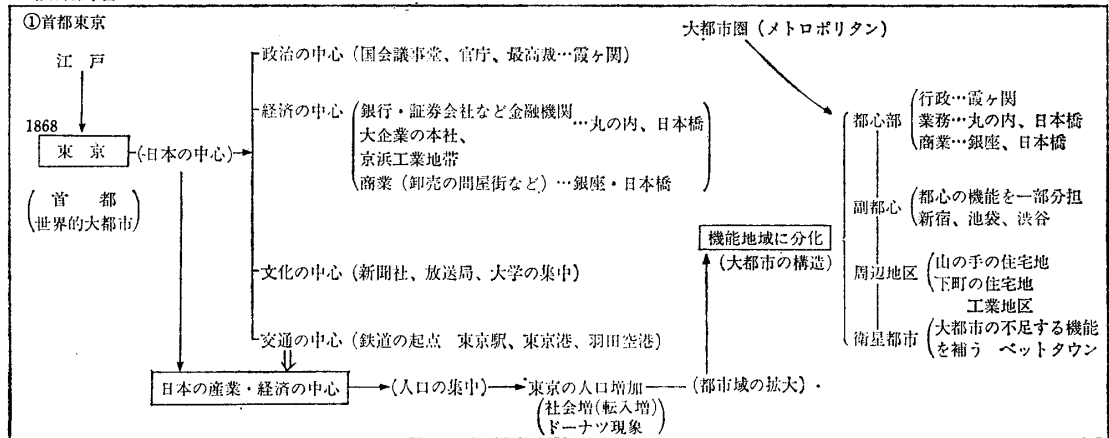
3. 授業におけるOHPの実際的利用

上図は地理の授業の基本的な流れであり、OHPの利用を考える時こうした授業の構成を絶えず念頭において教案を作成すべきである。しかし、毎時間の授業がすべてこの流れのとうりにゆくものでもない。従って実際の授業では次のような利用が考えられる。

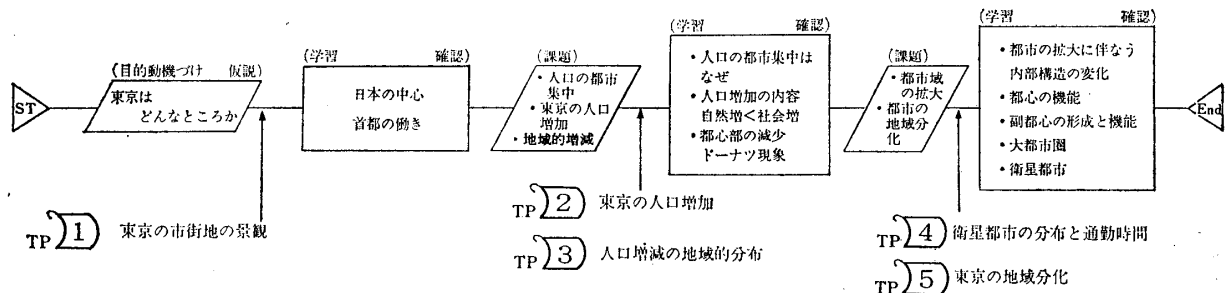
- ①前時の復習に……前時の授業内容やまとめの板書の利用、前時使用の基本的資料・図表のチャートの利用、宿題や作業の答えをマスキング法で。
- ②授業への動機づけ・興味づけに……景観的TPのスライドの利用
- ③学習の展開部に……授業のポイントになる資料・統計図表の提示をチャートの利用、オーバーレイ法、マスキング法で。
- ④まとめに……授業内容の再確認のために再提示。

OHP利用のための授業案（関東地方の学習から）

● 授業内容



● 授業の流れとTP使用の場



次に実際の授業の流れとOHP使用の場面をしめしてみよう。これは単に授業の流れとOHP使用の場をしめただけであり教科書・地図帳などの使用場面は省略されたものです。

4. OHP使用の留意点と今後の検討

効率的な授業をめざしOHPの若干の活用をとうして気づいた二、三の留意点と今後検討の方向についてまとめると次のようなことがいえるのではないかな。

①効果的なTPの作成

OHPの効果はTPの良し悪しできまるものであり市販のTPにも使用にたえるものがでてきたが、やはり授業担当者が各科・各科目の特性に応じたTPを作成すべきである。そのためには、サーモファックスなど作成の機械化をめざしながら、効果的なTP作成のための共同研究やチーム研究の必要があるのではないかな。

②資料提示装置の中心としての利用

社会科地理の性格にマッチしたものとして日常的な利用を試みているが、各科の授業においても日常的に利用できるような環境整備に、教師が意欲的に取り組む必要があるのではないかな。高度な機器の利用をめざす初歩的段階としてOHPの日常利用を試みるべき。

③OHPと他の機器と組合せて使用することを考える

機器の利用は、実際的な利用を積み上げて段階的に

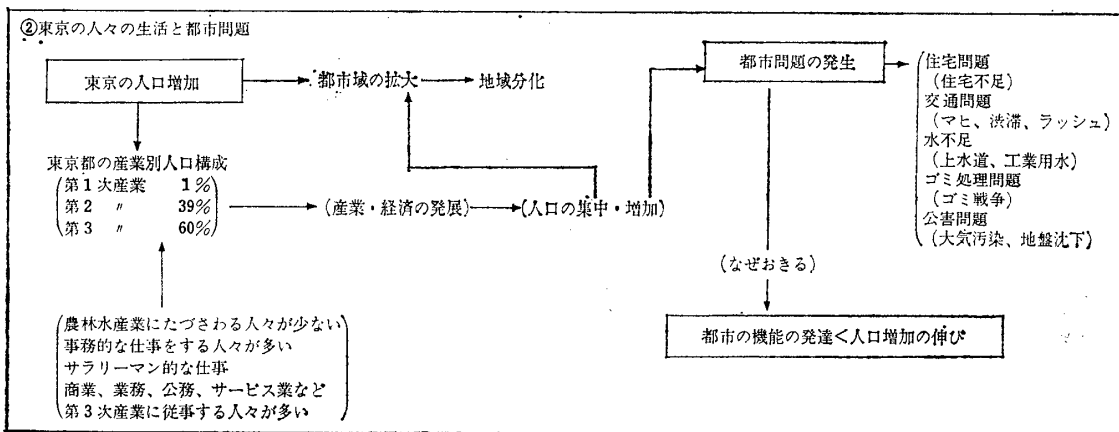
進展を計るべきであり、OHPにスライドプロジェクター、テープコーダなどを組合せた利用を試みて、システム化やTMの利用の道をみい出すべきである。

まとめにかえて

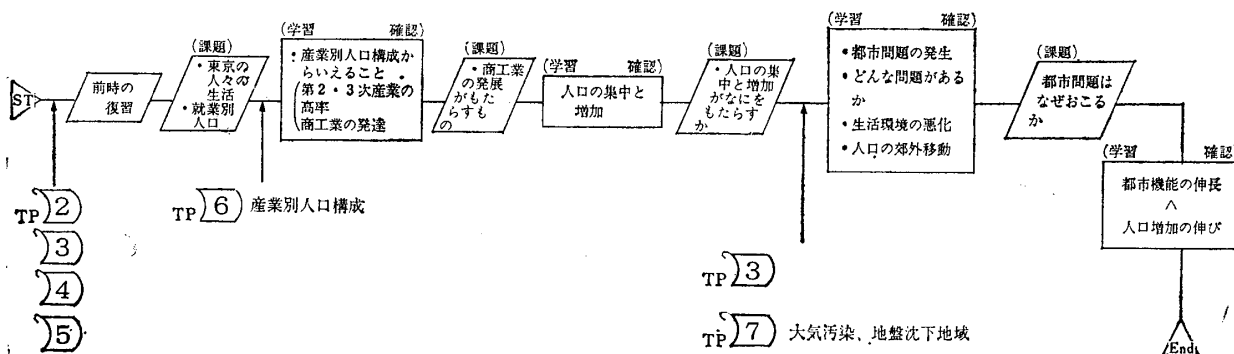
これからも教育機器の利用や導入はおおいに奨励され、機器を利用した授業の実践やその研究も進展して行くと思われる。しかし、これまでの実情をみると、機器の設置・充足、即ち、環境整備に相当の努力が払われ、それらを利用した授業の評価に視点をのいた研究がなされてきたが、学校として一応機器が完備されても、全体として授業にどう活用するかという研究体制が整わないのも実際であるし、その研究もいかに効果的であるかという機器の効用のみの追求が中心になっているのではないかなとも思える。

次第に機器利用が可能になっている今日、各教科・各科目の担当者に要求されることは、機器利用を念頭において、各教科のねらいをふまえた教材の精選と学習の過程の検討ではないかな。教科の構造やねらいを明確にして教材研究を積みかさねて、どの分野にどのような機器が効果的に利用できるかを考える基本的姿勢を保持して行かねばならないし、また、機器の利用は全校的な取り組みの姿勢やグループまたはチーム研究がそれを具体化するものとして重要なことであることはいうまでもない。

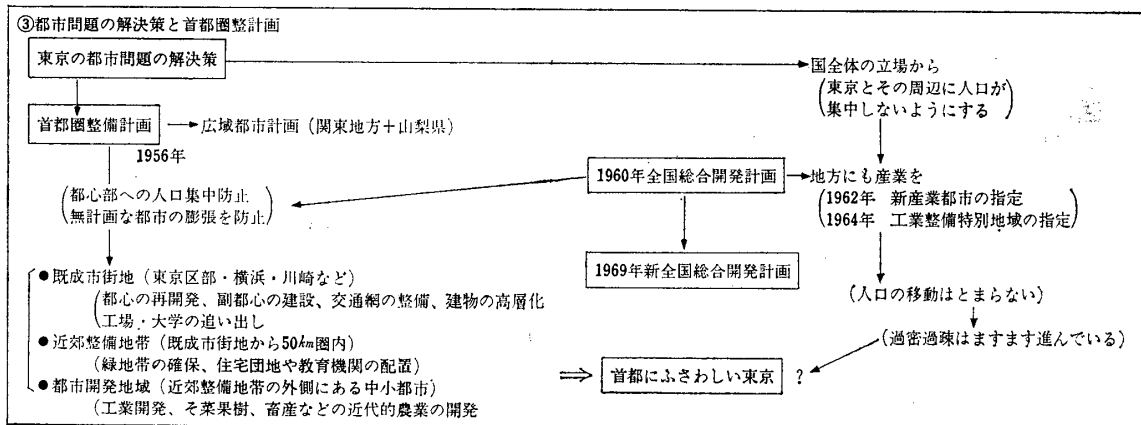
● 授業の内容



● 授業の流れとTP使用の場



● 授業の内容



● 授業の流れとTP使用の場

